

## 第3回 信州須坂まちの元気創出推進委員会

### 議事録

【日時】 令和3年1月13日（水） 13:30～16:30

【場所】 生涯学習センター（旧中央公民館）3階ホール

#### 【内容】

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事
  - (1)2021年度各事業計画について  
「産業振興」「文化振興」「回遊促進」の3部会で検討した事業計画について
  - (2)2021年度収支予算について  
「まちの元気創出推進委員会」に係る予算について
4. その他
  - (1)その他の事業について進捗状況の報告  
須坂市内回遊性向上のための交通検討業務  
文化財・まちのお宝（魅力）まるごと電子ブック構築事業について
  - (2)今後の予定について
5. 閉会

#### 【出席者】

21名

（委員13名 市関係者4名 事務局4名）

#### 【オンライン参加】

UDC 信州、事業戦略構築・産業振興事業支援共同事業体（（株）JTB 総合研究所（株）事業開発推進機構）、（一財）長野経済研究所、（同）DMM.com

#### 【資料】

- ・次第
- ・席次
- ・全体進捗と今後の予定
- ・産業振興事業実施事業（案）
- ・文化振興事業実施事業（案）
- ・回遊促進事業実施事業（案）
- ・第3回回遊促進部会議事録
- ・予算書 令和3年度信州須坂まちの元気創出推進委員会収支予算書

## 【会議内容】

### 1. 開会

### 2. あいさつ 委員長

地域資源を生かした「まるごと博物館構想」により地方創生事業に取り組むため、この推進委員会を立ち上げた。現在までの進捗状況については今までの会議で説明してきた通りである。手元の資料に全体の進捗と今後の予定を示した。資料に12月9日に第2回の委員会を開催して以降、本日1月13日に第3回の委員会を開催するまでの状況について記載しているので、資料を読んでご理解頂ければと思う。

昨年の第2回委員会では事業戦略構築委託事業者からの提案について審議、決定を頂いた。それをもとに各委託事業社が2021年また2022年度の事業計画などを立案し、各部会において、提案をもとに内容を検討してきた。本日は、今月下旬に国に交付申請を行って補助金を頂く予定ということで2021年度実施予定の事業について審議、決定を頂きたいと思っている。決定した事業については各部会にて詳細を詰めることになると思うが、国から補助金を頂くということで、国主導のもと行うものも出てくると思う。これについてはご承知頂きたい。来年の事業について交付申請をしていくという段階になっているので、その点について決議を頂ければ大変ありがたいと思っている。委員には本事業の2年目、3年目に向けて共にこの事業を進めていきたいと考えているので、宜しくご審議頂きたいと思っている。今後も引き続きご協力頂くことをお願いして挨拶と変えて頂きたい。

### 3. 議事

#### (1)2021年度各事業計画について

「産業振興」「文化振興」「回遊促進」の3部会で検討した事業計画について

#### ①産業振興部会

##### ●事業説明：共同企業体

##### ●質疑

委員長：「戦略資源活用による地域産業の拡大」にある「ぶどうの共和国」とはどのような事業なのか説明して頂きたい。

共同事業体：宮古島の「マンゴー共和国」という取組みがあり、これは架空の国を見立てて市長を大統領としてマンゴーを集中的に販売するというものである。宮古島ではマンゴーを7～8月の2ヶ月のみ販売するが町中の店がのぼりを立て、どこでもマンゴーが買えるようになっており、さらに購入者は翌年からネットでもマンゴーが買えるようになるという仕組みができています。外部に向けて集中的に露出、販売を行って行くという取組みである。町の至るところにのぼりが立つので地元の人でも「マンゴー共和国」の時期を認識しているという成功事例である。これをブドウでできないかと考えた次第である。

委員長：「無関心層を関心層に変える」ということは重要だと思うが「活用ストーリー構築」とはどのようなことをするのか。

共同事業体：例を挙げると、昔、劇場通りが賑わっており「美空ひばり」など日本を代表するスター達が来て舞台を行っていたという歴史がある。その時、美空ひばりがカツ重を120個注文したという話を伺った。このような話を整理しストーリーで繋げて表現していくことが重要だと考えて

いる。他の例としては沖縄の闘牛があり、通常なら闘牛の試合にとにかく多くの人に足を運んでもらおうとするが、きちんとした事前知識が無ければ無関心層が嫌悪層に転じる可能性がある。そこで試合を見せるだけでなく、闘牛の飼い主、エサ、トレーニング内容などをきちんと掘り下げ、観光客等が関心を示すポイントを抽出して情報発信をした。よくある例として名所、旧跡を表現する時に事実に基づいた堅い文章で情報発信するというものがあるが、この方法では観光客は全く反応しない。ストーリー化とは、資源を掘り下げて観光客が関心を示しそうなポイントを抽出するなどして情報発信をしていくということである。

委員：産業振興推進事業に関して 5 事業あるが、今後の事業の進め方としては 2020 年度地方創生交付金実施計画によると業務委託、または一部業務委託とある。産業振興推進事業に関しても 5 事業それぞれ業務委託になるのか。

事務局：5 事業はそれぞれ業務委託になると思う。それぞれを分割するか、関係のある部分に関してはまとめるのかという点については委託事業者と検討することを考えている。現時点では 5 事業を分割するかどうかは決定していない。

委員：「無関心層を関心層に変える活用ストーリー構築」の「ぶどう共和国」について、他のリンゴなどの果物に関してはどのように取組みを行うのか。

共同事業体：「ぶどう」共和国としたが、現時点ではあくまで一例である。戦略資源を活用したイベントの企画と書いたが、リンゴ含め果物を活用したスイーツの展開を進めていくことを「新たな地域エコシステムの構築」の方に書いている。これらを連動して進めていくことを考えている。部会の方からも傷リンゴ活用の方策を検討する必要がある、という意見を頂いており、そのような観点も含め、ぶどうに限らずそういったイベントを検討していきたいと考えている。

委員：文化財の活用倉庫について、自分が所属している回遊促進部会では、倉庫はあくまで文化財の保存が目的なので一般公開など、文化財を傷める可能性のあることは避けたいという学芸員の方からの意見もある。これについてどのように考えているのか。

事務局：施設名自体が「保存活用」倉庫となっている。勿論、保存に関しては文化財保護法の観点から重要な部分ではあるが、現在文化庁側も立派な文化財が存在するということを市民に周知していくことが将来の保存において必要であるという政策に徐々にシフトしている。保存することが第一であり、活用に関しても常時公開する訳ではない、現在行っているように年に 1, 2 回での公開のペースを 4 回程度に増やすなど、市民に文化財に触れてもらう機会を少し増やすような方向で進めていきたいと考えている。

事務局：追加で、文化財保存活用倉庫は 2 階建てになっており、2 階部分には劣化の心配が大きいものを保存し、1 階部分では民具など劣化の心配が少ないものを置いている。現在は 1 階部分の展示を行っており劣化の心配は少ないと考えている。展示方法については武蔵野市の例で、保存場所をそのまま展示するという方法もある。須坂市では笠鉾などがある。そういった保存を考慮した活用方法含め提案を頂いているものと考えている。

委員：やはり一度失われたものは元に戻せないということが心配であり、保存系の審議会などあれば、そちらの文化財保存の専門家の説明も頂ければと思う。

事務局：明後日に文化財審議委員会があるので、そちらで審議委員の方に、今回の小林委員の意見についてお話を伺いたいと思う。

委員：米子大瀑布は現在調査できない状況にあり、実際に現地に行けるようになるは何年かかかると思われるが、目に見えないものをどのように説明していくのか疑問である。

事務局：米子大瀑布に関しては承知の通り台風 19 号の影響により道路が崩落している。道路河川課の方で地滑りの可能性などについて検討して頂いており、来年道路を設計し、再来年度には大瀑布へ行けるようになるという話を聞いている。しかし観光客など多くの人に来てもらえるようになるまで整備できるかはまだ不明である。

## ②文化振興部会

●事業説明：長野経済研究所⇒通信の問題により事務局が代行

### ●質疑

委員：学校構想事業にある「ガイド候補」また「おもてなしガイド」は実施の段階でどこの事務局が担当し、誰が担うのかが今ひとつ分からない。また他の事業に関しても、構想は大変良いものだと思うが、実際に実施の段階に入るときに計画倒れにならないか懸念している。

事務局：頂いた意見は文化振興部会の中で今後検討していくことだとは思いますが、ガイドに関しては観光協会のガイド、生涯学習でやられているインストラクターに担ってもらうことを考えている。自分が公民館にいた関係から、これらのガイドを統一化する必要性を感じている。ガイドを要請し、市のどこが担っていくかは課題であり、現在はまだ決まっていない。観光協会や生涯学習の部門、学び郷のインストラクターの方々と話をしながら、須坂を案内する仕組みづくり、事業を継続していく方法などを検討課題として文化振興部会の中で引き続き検討していく予定である。

委員：観光協会の観光ガイドの会の会長を務めており、その観点から話をさせて頂く。資料に「ボランティアガイド」という言葉が度々出てくるが観光協会の観光ガイドは有料で行っており、ボランティアと書かれるとこちらとしては入り込みにくい。できれば「市民ガイド」と示して頂いた方が良いと思う。またやはり対価が無ければ長続きしないと思うので、そちらに関しても検討して頂ければと思う。

事務局：ボランティアガイドの表記については観光協会のガイドとの関係もあるので検討していきたい。ガイドの継続に関わる対価についても、ボランティアとは広い意味では無償を表わすものではないので、今後検討していく。

委員：文化振興事業の内容に関して、素晴らしいものが多いと思うが、2021 年度 500 万、2022 年度 200 万という予算でやっていけるか不安である。例えば YouTube に投稿する映像についても多くの人に見てもらうには、しっかりとしたものを作る必要があり、予算をかける必要があると思う。可能であれば予算の見直しも必要ではないかと思う。

事務局：予算に関しては、地方創生交付金の範囲内で行って頂いており、来年度の 500 万については申請の都合上変えていくことは難しいと思う。ただし、再来年度、映像制作の部分に関しては委託業者と検討し、2022 年度の全体予算のなかで調整できるものがあれば検討していきたいと思う。

事務局：委員の意見の中で、「良い物を作るには予算がかかる」とあったが、この後説明頂く回遊部会のなかでもプロモーション映像の制作、産業振興の部分でもプロモーションの文言があり、文化振興部会が専門で映像制作を行うのではなく、全体として調整して行っていく予定である。

委員：須坂は養蚕業がさかんで製糸工場が発展してきた話やそれに関して越寿三郎さんなど話が今までの会議で出てきた。大正 12 年に越寿三郎さんが作った工場歌「須坂小唄」というものがある。これが現在須坂の夏祭り「カッタカタ祭り」で踊られている。今までの会議でこのカッタカタ祭りに関する話が出ていないが、歴史のある祭りでもあり、こういったことを発信していくことも必要だと思う。この話もどこかに加えて頂ければと思う。

事務局：カッタカタ祭りに関しては、委託事業者また文化振興部会の中で今後その歴史と文化を踏まえ資源として入れていくことを検討していきたいと思う。

委員長：文化振興部会の関係にも関わらず「学校構想」という名前を使っている。「学校構想」とは須坂の歴史文化、体験交流のできる仕組みを学校に見立てたものであるとされているが、学びの場だから「学校」という言葉を使っているように見える。「学校構想」がどのような構想なのかしっかり明記してもらいたいと思う。できれば「学校」とあるのだから小中学生に学びの場を設け須坂に愛着、誇りを持ってもらえるよう展開していくから「学校構想」とする、といった文言も入れると良いのではと思っている。

### ③回遊促進部会

●説明：DMM.com

●質疑

委員長：回遊促進実施事業に関して、2021 年度実施事業の方針（案）とあり、2つの事業をやめて、他の事業を受け入れた形になっている。特に公共交通事業に関しては、公共交通とあるが観光客を中心としたものでないと認められない。観光、観光集客の言葉を入れて頂くのが必要だと思う。交流の拠点整備事業についても、よっと蔵いと隣接建物の整備とあるが、観光のための交流拠点であり、物産館含め整備していくことをしっかりと明記して頂けるとありがたい。

また既存展示物の張り替え修繕では対象にならないので、「改修」、「機能強化」といった言葉を用いて説明を変えて頂きたいと思っている。

DMM：回遊促進事業ということで、あくまで対象は観光客であり、どのように回遊させるかということ意識している。例えば地元の方に地元が観光地になったと感じてもらえるような公共交通の仕掛けを提案させて頂いている。交流拠点整備事業に関しても同様に、地元の人が挑戦しやすいフレキシブルな場ということになっているがターゲットは外からの観光客ということにしており、さらに地元の人にも楽しめるようなものということで今回マルシェというものを提案した。張り替え修繕に関しては、壊れたものを直すというイメージが強いと思うので、表現を修正させて頂く。イメージとしては元に戻すというより、新しく始まる須坂を印象づけるようなアナログのサインージュを新たに作っていくというものになっている。

委員：よっと蔵いの整備事業について観光の拠点と言っていたが、現在実際に観光拠点となっているのは観光協会の観光交流センターである。町なかの観光拠点になっており、さらにその裏がリングの木が生えている庭で、そこでもマルシェをすることが可能である。新たによっと蔵いの整備をしてマルシェを行う必要があるのか。

またよっと蔵いは以前農林課で利用していたときにお金をかけて少し直したと記憶している。再び修繕を行うのは予算の無駄になるのではないのか。可能であれば既存の交流センターを活用した回遊を考えて頂いた方が良いのではないのか。交流センターは許可を取って飲食を可能にしてお

り、2階も貸しホールになっている。回遊はどこをメインとするのか根本が分からず、交流拠点整備事業に関して、お金をかける部分をより具体的に示して頂きたい。修繕費用やマルシェの運営費、マルシェに出店するとされている「大勢の」クリエイターの数などが分からない。観光協会として朝市などを行ったが出店してくれる事業者はそれほど多くなかったため、現実的にはマルシェの効果はそれほど見込めないと考えている。イベントに関しても色んな協力をするという話だったが、現在須坂では多くのイベントが実施されているものの一時的な賑わいで持続的な町の活性化に繋がっていない。イベント頼みにせず、町を根本的に活性化できるような部分にお金を使うべきだと思う。DMMさんに特に期待しているのは映像コンテンツであり、そのような部分に予算を使って頂けると良いかなと思った。

DMM：よっと蔵い周辺を拠点とする理由は、現在駅前にある観光交流センターが拠点となっていることは周知しており、そこを拠点としながら、どこまで観光客に動いてもらうか、また動いた先を見据えたからである。よっと蔵いに関しては市の方から既に地域興し協力隊の方を常駐させ観光インフォメーションの拠点に位置づけして頂いている。提案はその位置づけをより強化することを目的としている。イベントに関しては単発では効果が薄いということで、地域の方に挑戦して頂く場所をコンセプトとして地域の方を主体にして朝市、または祭りのように出店して頂いて参加してもらうことを想定している。映像コンテンツに関してははっきり注力していくことを考えている。一番コストパフォーマンスの良い方法について協議していく予定である。

事務局：施設に関して、現在地域おこし協力隊がいる左側の「結」と呼ばれる旧よっと蔵いの施設は2階部分で右側の建物と繋がっている。右側の建物には所有者がいるが現在取得の方向で話が進んでいる。建物全体として歴史的なものでもあるので、これを活用し交流拠点として整備をしていきたいと考えている。まず地域おこしの拠点、また現在選定を進めている重要伝統的建造物群保存地区に関わる歴史的建造物のリノベーションの拠点、郷土食を提供できる食の拠点、さらに歴史的町並み保存の拠点としても整備を進めていきたいと考えている。また、観光協会の観光交流センターについてはまるごと博物館構想のなかで拠点として結び付けていくイメージをしている。産業振興部会で行っているスイーツなどもよっと蔵いのほうで提供していきたいと考えている。

#### ④全体を通して質疑

委員：文化財保存活用倉庫に関して、現在外観が完全に倉庫である、拠点とするならば外装の改修や工夫などを行うことで良くなると思う。予算的には難しいのか。

事務局：今回の予算のなかで外観の改修を行うことは難しいが、今後、景観計画に沿ってではあるが、外壁の色などを変更することもあると思う。文化財保存活用倉庫は博物館基本計画にも含まれているので今後検討していきたいと思う。

委員：回遊促進部会の議事録が見やすく、参加者の意見が非常に見やすく良かった。文化振興、産業振興の方でも委員からどのような意見が出たか示して頂ければと思う。またその意見への対応についても記述して頂けると良いと思う。

事務局：それぞれの部会の議事録をまとめたものの配布を検討していきたいと思う。

委員：産業振興部会の添付資料 2 ページ目に各部会委員の意見が書いてあり、良い意見が多く出ていると思うが、これらを反映したものが次ページに示されている最終案なのか。

共同事業体：部会の方で多くの良い意見を頂き、それらを参考にさせて頂きつつ事業の方に反映させて頂いた。意見がヒントになりつつ新たな表現、施策のイメージが膨らんできたと考えている。

委員：5つの事業に関して、誰を対象にして誰が実行するのかということ具体的にはそれぞれの事業ごとに示して頂けないと、本当に実行できるのか疑問が生じる。例を挙げるとぶどうに関しては既にフルーツハリウッドと言って生産者の方がすでに「共和国」のような取り組みを行っている。その他ぶどう、リンゴを活用したスイーツに関しても、過去に「フルーツスイーツ研究会」というものがあつた。これは予算を充てたが現在はやめている取り組みである。具体的に、どこが取り組みを進めるのか、実際に参考にして活用していくのか今後示して頂き、永続的に残っていく事業にして頂きたいと思う。

共同事業体：今回は各事業の大枠とイメージを示したものとなるが、次年度以降に事業を実施する際に仕様書のような形に落とし込んでいくので、その過程で、主体、見通しについて事務局と相談しながら埋めていきたいと考えている。

委員：今後の方向性にある「特産品の販売」に関して、現在商工会議所のほうで須坂の物産ガイドを出しており、物産品、事業者を選定して取り組んでいる、また観光に関しても観光協会の方で EC サイトを立ち上げている。関連する事業所と密に連絡をとって連携していかなければ事業の実施は難しいと思う。今後は関連事業所と具体的に連絡を取っていくことが必要だと思う。

共同事業体：頂いた意見について事務局の方と相談していきたいと思う。

委員：回遊促進の戦略的資源において文化財保存活用倉庫の活用について「映画の町須坂」というブランディングに違和感がある、また倉庫の積極的な活用については委員会に再考を求めると DMM さんの方から書かれているが、それについては良いのか。

DMM：文化財保存活用倉庫について回遊促進部会では特に積極的に活用しなくても良いのではないかと意見が出ており、事務局の方には返させて頂いた。活用という側面については内部に順路を設け、既存のしっかりとしたルートで見て頂く、また展示品が劣化しないような整備、また展示物の流れが分かるような順路の設定など、ハード整備が展示物をしっかりと保管するためには必要だと思う。しかし、倉庫を核にした回遊促進プラン、イベントの実施までの積極性は回遊促進事業では入れておらず、弊社としては不要だと考えている。「映画の町」というブランディングに関しては、委員の方からコンテンツの不足が指摘されており、また元々作ってきた「蔵の町」ブランディングがあるので、そちらをベースとしたプロモーションを計画している。

委員：個人的には、市民が違和感を持つことがチャンスなのではないかと考えている。映画の町にもストーリー性があるようである。蔵の町という面が定着してきているところではあるが、そこにプラスで映画の町という要素があるとレトロ感があって須坂に合っているのではないかと期待していた。文化財保存活用倉庫に関しても、そこで回遊促進が生まれるのではないかと期待していたので、もう少し予算を付けて頂きたいとも思っていた。もし可能であれば、また回遊促進部会の方でお話頂けたらと思う。

DMM：蔵の町だけのブランディングでは弱い部分もあると考えている。これまでの伝統と組み合わせる革新の部分としては先程プロモーションのステップ 1 で説明したようなエッセンスが必要であると考えている。映画の町に関しては映画の面か、レトロというベースの面で振っていくのか色々な打ち出し方があると思う。持っているポテンシャルを生かすという部分に関しては変わらないので、部会の方で共有したいと思う。

委員：キャッシュレス化、SNS など WEB 関係の言葉が多く出ているが年齢、業種によってはまだまだ普及していないかと思う。商店、事業所含めホームページのないところも多い。そういったこと

を整備した上で WEB 関係の事業を進めていくべきだと思う。愛着向上に繋がる講座よりも先に実施してもらう必要があると考えている。

共同事業体：WEB 等の環境整備については、その通りだと思う。その辺りの順序については精査させて頂き、仕様書の方に落とし込んでいきたいと思う。

委員：2023 年度以降、どのように事業を繋げるのか。また具体的に実行するのはいつになるのか。

事務局：基盤整備の部分、実証的な部分に関して 2 年度事業を行い、3 年目に実際に事業を展開していくという進め方である。3 年目まで事業を行った中で、ボランティアについてなら、どういった仕組みで取り組んでいくかは、今後 2 年の中で検討していく形である。またどのような仕組みで事業に継続性を持たせていくのかという部分は検討課題になると思う。委員の皆さんと考えていけたらと思う。

行政担当：須坂市の小中学校在り方検討会議で一つ提案をした。教育内容に関しての案で未来を担う子供たちへのふるさと教育を充実させるため生涯学習センターが中心となって、地域公民館が学校との窓口となり、連携を深めてほしいといったものである。須坂市の教員のほとんどが須坂市外の出身である。そのような状況において地域公民館と連携できればふるさと教育を担う人材と考えると考えたからである。また、小学校と地域公民館は基本、地理的に非常に近く連携が難しくないと考えている。これが「まるごと博物館構想」に含まれているので会議の方で話をした。ふるさと教育を重点的に行っていくという点に関しては計画を立て具体的に市の共同体で進めている。

委員：どの事業も実施できたら良いと思うが、具体的に考え始めると悩んでしまう。先程から話に出ているが誰が指揮を執っていくのかというところが具体的にできると協力する事業体などが明確になってきて継続して実施できるようになってくると思う。また、なにも分からない状況で市民の方からどの程度協力してもらえるのか不安である。

委員：龍の割石を観光の中に入れて頂ければと思う。またぶどう共和国に関しては須坂フルーツ王国とって取り組んできたのでそういった言葉を入れて頂ければと思う。スイーツに関してはトシヨロイツカさんに色々発信して頂けるので、トシヨロイツカさんの名前を入れて頂きたいと思う。

共同事業体：龍の割石に関しては市外の人々が訪れて賑わっている様子を見て市民の方も動いているという印象を受けた。外部からの刺激により市内も活性化していくという形に持って行ける素材、また良い事例だと思っている。活用に関しては回遊とも関連してくるものと思うが事務局の方と話をし検討していきたいと思う。フルーツ王国、トシヨロイツカさんについても検討していく。

委員：事業を具体的に誰が行っていくのかという点は重要だと思う。果物に関しては、現在生産者の方から受託されて市場の方へ販売しており、年々高値で取引させて頂いている。飲食関係は重要だと思うので、観光スポットの近くに飲食店があるのが理想だが、移動販売などあっても良いと思う。

委員：話を聞いているだけで大変勉強になった。



委員：文化振興の中にあつた「学校構想事業」に関して、市内の学校ではふるさと教育の充実ということで地域に愛着を持った子供達を目指して色々教育を行っている。小中学校では一人一台端末整備をして主体的な調べ学習が取り入れられてくると思うのでそこで学校構想に入ってくれる子供達が居ると良いと思うし、そういった働きかけを行っていきたいと思う。

行政担当：公共交通事業に関しては、現在市の地域交通協議会でも地域の交通計画の策定が進められている。そちらでも公共交通の見直しを行うが、そのなかで利便性が高いものを市民、観光客に提供できるよう協議会でも検討していくので連携を取りながらよりよい計画にしていけたらと思う。

行政担当：今まで行ってきた事業と重なるものが混在しているのでそういったものの位置づけ、表記をしっかりとすることが必要だと思う。

委員長：今回出た意見に関しては仕様書の中で反映させて頂きたいと思う。

## (2)2021 年度収支予算について

「まちの元気創出推進委員会」に係る予算について

●説明：事務局

●質疑 なし

## 4. その他

### (1)その他の事業について進捗状況の報告

①須坂市内回遊性向上のための交通検討業務

②文化財・まちのお宝（魅力）まるごと電子ブック構築事業について

●説明：事務局

●質疑 なし

### (2)今後の予定について

●説明：事務局

### (3)全体通して質疑

委員：アプリ事業について 4000 万の予算をかけて実施するという話があつたがこれについて特に意見等は求めないのか。

委員長：アプリに関しては今年度既に実施している事業なので進捗報告だけさせて頂いた。

委員：アプリに関して、他の部会の方から話を聞くと不安に感じている人が多く、意見を述べても仕様はもう変更できないという回答が多い、もう仕様は変更できないのか。

事務局：今まで各部会の方で途中報告という形でアプリのイメージとしてフレームの方を示してきた。その中で頂いた意見の中で取り入れられるものに関しては入れた。予算とスケジュールの都合上、取り入れられなかったものに関しては来年度以降取り入れることも検討している。

## 5. 閉会